

豊田市の中山間地域における高齢者の生活環境に関する調査研究

Survey of the Living Environment of Senior Citizens in a Mountainous Area of the Toyota District

神谷 清仁⁺, 小林 定教⁺⁺
Kiyohito KAMIYA, Sadanori KOBAYASHI

Abstract : In towns and villages of remote mountainous regions there is a growing percentage of senior citizens in the population and are even in the majority in some rural communities due to the flow of younger and middle aged population into urban regions. It seems many seniors , as well as the middle aged people who support them wish to continue their autonomous living in their own houses in the rural regions where they are accustomed to be and enjoy a tightly knit web of communication with there neighbors. However, seniors often face difficulty in the upkeep of their household, especially during the winter time.

This survey aims to obtain data to help improve the living environment of the senior citizens to make it more worth living through questionnaire surveys on their present living conditions, their residential environment, and their way of life during the winter time as well as how to establish and live an independent life in the future.

The survey was conducted in a mountainous area of the Toyota region where the percentage of seniors is quite high.

1. はじめに

中山間地域^{注1)}においては、近年、若者、中高年の都市への人口流出などにより、高齢者人口の占める割合が一段と高くなり、高齢者が社会の担い手となりつつある。

高齢者や、高齢者の生活を支える中高年の人々は、今後も地域の交流の中で住み慣れた家や地域で自立した生活をするを望んでいると思われるが、高齢者世帯の生活維持は、特に冬期において困難な場合が多い。

2005 年 4 月、豊田市は中山間地域の小原村、旭町、稲武町など 6 町村と合併し、広大な自然と活力ある産業が共生する文化都市づくりが始まり、今後の中山間地域における高齢者にも対応できる街づくりが注目される。

本研究では、高齢者の人々が自立した生活を維持する上で抱えている不安、今後の生活環境づくりの問題点などについてアンケート調査を行い、より生甲斐のある高齢者社会の住まいづくりに役立つ資料を得ることを目的とする。

2. 調査概要

2.1 調査対象地域

調査対象地域は、豊田市北東部の、岐阜県に隣接する小原支所、旭支所と、岐阜、長野両県に隣接する稲武支所である。稲武支所は、小原・旭支所と異なり、支所周囲に古くからの街が形成されているため街部と周辺部に分けて調査を行った。(図1)



図1 調査対象地域 (豊田市)

⁺ 愛知工業大学 工学部 都市環境学科 (豊田市)
⁺⁺ 島根大学 (松江市)

表 1 に小原、旭、稲武各支所の人口、世帯数、老年人口割合(%)を示す。老年人口割合は、旧豊田市が 11.7%であるのに対し、小原、旭、稲武各支所では 32.3%、38.8%、34.5%と 20%以上高い値を示す。各支所では 3 人に 1 人が 65 才以上の高齢者である。

表 1 調査対象支所の概要

	小原支所	旭支所	稲武支所	注
人口	4,182	3,322	2,977	2004年
世帯数	1,242	1,103	1,079	2004年
老年人口割合	32.3	38.8	34.4	(%)2004年
幼稚園	1	0	1	1)
小学校	3	3	1	1)
中学校	1	1	1	1)
高等学校	0	0	1	1) 分校
医院	6	2	3	1)
歯科	2	1	3	1)
市役所まで	23 km	30 km	44km	距離 (km)

1)愛知県統計年鑑、平成17年度刊 愛知県

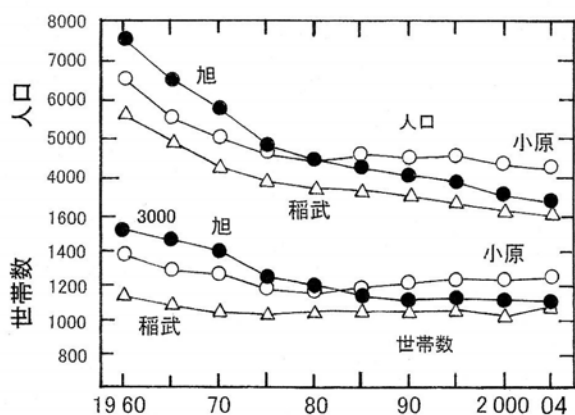


図 2 人口、世帯数

図 2 に 1960~2004 年の 3 支所の人口、世帯数の動態を示す。3 支所の人口減少は 1960~1975 年間に特に大きく、旭支所では、2004 年までの 44 年間で 1/2 以下に減少している。1980 年以降の小原、稲武の人口減少は以前より緩やかである。

2.2 調査方法と内容

調査は、2006 年 9~10 月に豊田市、小原、旭、稲武各支所ならびに各支所役員の協力を得て各支所内の高齢者を対象にアンケート用紙を配布し、郵送で回収する「配付郵送調査法」により行った。

アンケートの配布数は、小原支所：300 部、旭支所：300 部、稲武支所・街部：200 部、稲武支所・周辺部：200 部である。

調査内容は、中山間地域における高齢居住者の日常生

活に関する問題、現在の生活環境、住環境の種々の問題点に対する評価、医療、および高齢者用施設に関する項目である。

3. 調査結果と検討

アンケートの配布数、回答者数、回答率を表 2 に示す。

調査結果の検討に当たっては高齢居住者の人口割合、回答者の属性割合が異なるので支所毎に、高齢居住者の生活・住環境の現状と問題点について考察する。

以下、小原支所を小原、旭支所を旭、稲武支所の街部を稲武街、稲武支所の周辺部を稲武周辺(又は稲武周)と記す。

表 2 アンケートの回答者数 (高齢者)

	アンケート配布数	回答数(人)	回答率(%)	男性(%)	女性(%)
小原	300	193	64	75	25
旭	300	221	74	82	18
稲武街	200	140	70	69	31
稲武周	200	143	72	62	38

3.1 回答者の概要

4 地区の回答者の性別・年齢・職業を図 3、図 4 に示す。

1)小原：男性 75%、女性 25%、平均年齢は、男 73.2 歳、女 73.9 歳、職業は「事務・技術職」2%、「技能・販売職」4%、「農林」33%、「専門職」1%、「自営業」7%、「管理職」1%、「主婦」6%、「無職」41%、「その他」5%、「無回答」3%である。

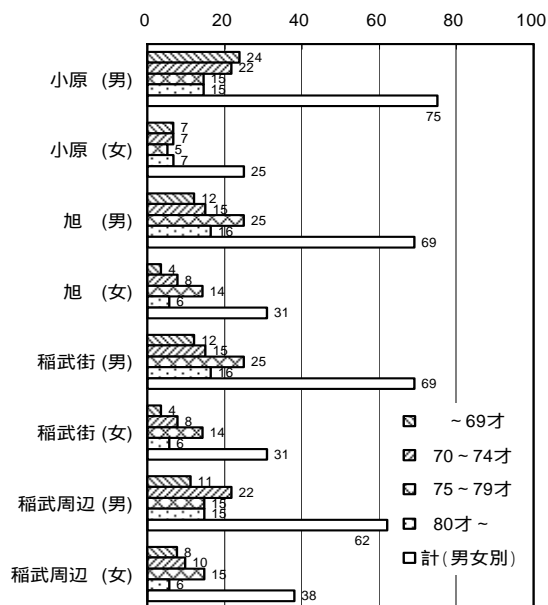


図 3 アンケート回答者の性別・年齢別

豊田市の中山間地域における高齢者の生活環境に関する調査研究

2) 旭：男性 82%、女性 18%、平均年齢は男 72.5 歳、女 73.9 歳、職業は「事務・技術職」2%、「技能・販売職」

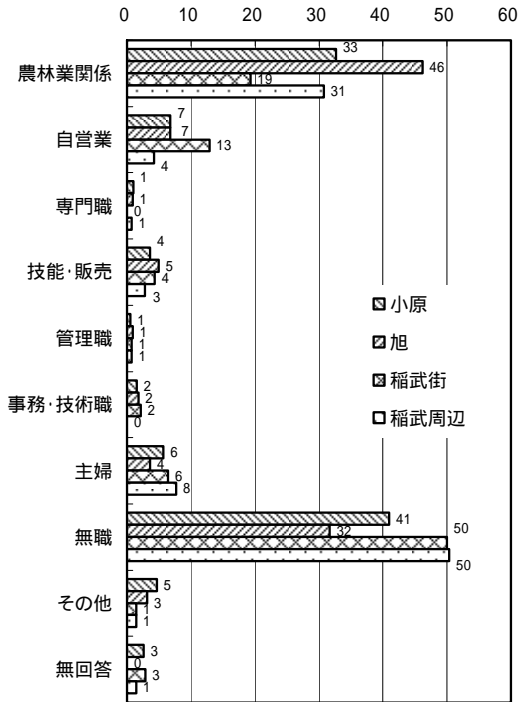


図 4 回答者の職業(高齢者)

5%、「農林」46%、「専門職」1%、「自営業」7%、「管理職」1%、「主婦」4%、「無職」32%、「その他」3%、「無回答」0%である。

3) 稲武街：男性 69%、女性 31%、平均年齢：男 75.1 歳、女 75.2 歳、職業は「事務・技術職」2%、「技能・販売職」4%、「農林」19%、「専門職」0%、「自営業」13%、「管理職」1%、「主婦」6%、「無職」50%、「その他」1%、「無回答」3%である。

4) 稲武周辺：男性 62%、女性 38%、平均年齢は男 75.5 歳、女 72.6 歳、職業は「事務・技術職」0%、「技能・販売職」3%、「農林」31%、「専門職」1%、「自営業」4%、「管理職」1%、「主婦」8%、「無職」50%、「その他」1%、「無回答」1%である。

農林業に携わる人が、小原 33%、旭 46%、稲武 31%と若手居住者を対象とした調査の 3～6%に比べ多い。

3.2 生活上の問題

3.2.1 生活上の問題に対する関心度

図 5 は、過疎化、少子・高齢化が進む地域で問題になる 7 項目についての関心を 5 段階評価したものである。「過疎化」「高齢者の一人暮らし」が全支所において「非

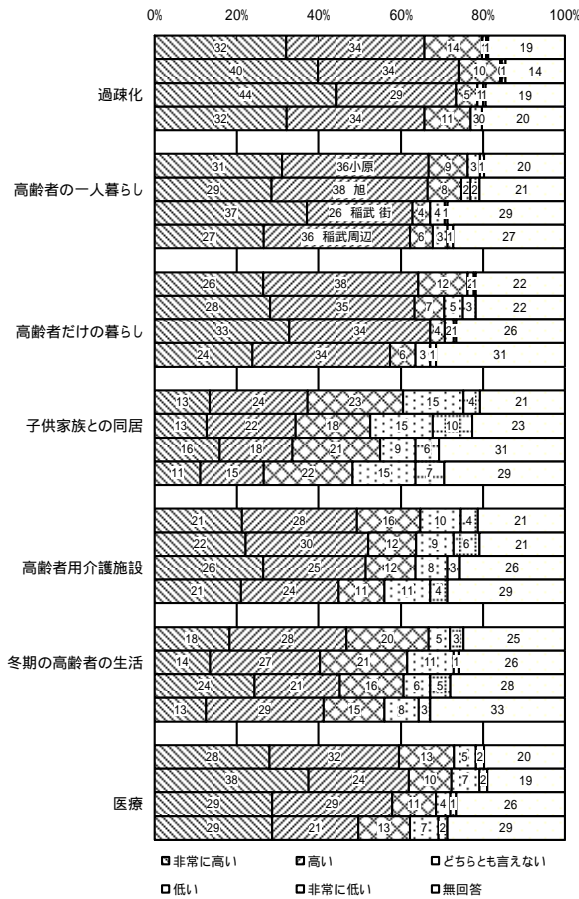


図 5 現在および将来の生活上の問題点

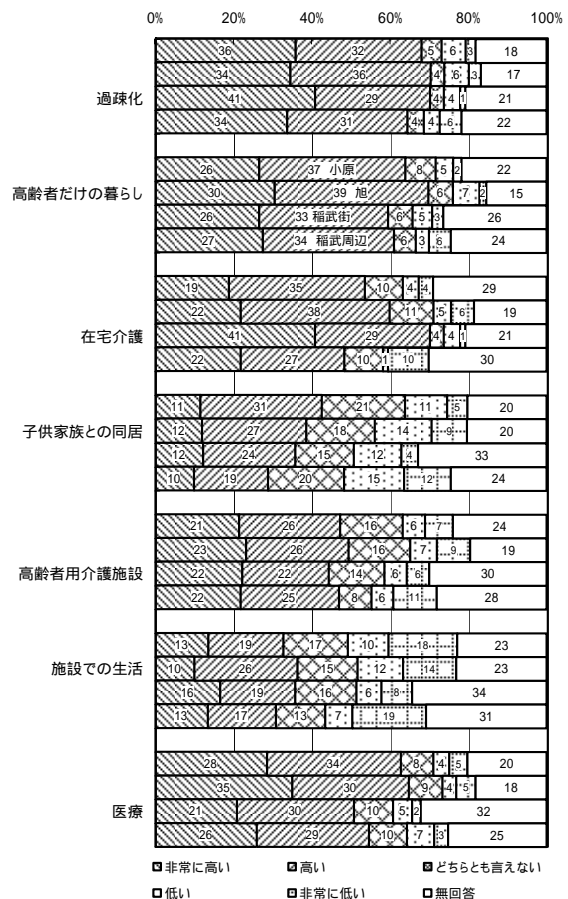


図 6 将来の生活に関し不安に思うこと

常に高い」、「高い」の両者を合わせて(以下『高い』という)60%以上と高い。つぎに「高齢者だけの暮らし」58~67%、「医療」50~62%と高い。「子供家族との同居」は26~37%と関心はやや低い。全項目に亘って無回答率(14~33%)が高い。

3.2.2 将来の日常生活で不安に思うこと

図6は、今後の不安に関する7項目について5段階評価したものである。「過疎化」「高齢者だけの暮らし」の評価が60%以上と『高い』を全地区で示す。つぎに「医療」(51~65%)、「在宅介護」(49~70%)と高く、「高齢者用介護施設」(44~49%)、「子供家族との同居」(29~42%)は、旧豊田市から離れるほど小さくなっている。「施設での生活」(20~26%)は最も低い。全項目に亘って無回答の割合(15~34%)は高い。

3.3 各支所での生活状況

3.3.1 在住年数

回答者の在住年数を図7に示す。在住年数60年以上の人が小原66%、旭70%、稲武街70%、稲武周辺63%と6~7割を占め、40~59年の居住者(小原18%、旭20%、稲武街21%、稲武周辺25%)を加えると在住年数40年以上の人が小原84%、旭90%、稲武街91%、稲武周辺88%と8~9割になる。20~40年は5~10%、20年未満は1~4%で、高齢者の転入は少ない。

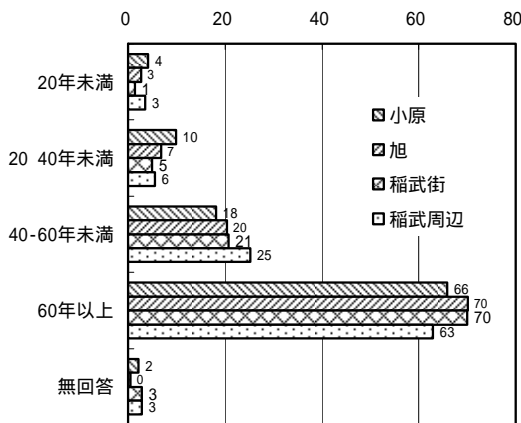


図7 当地での在住年数

3.3.2 家族構成

家族構成は、夫婦二人が小原30%、旭43%、稲武街48%、稲武周辺37%で、つぎに「夫婦と子又は子供家族」(小原41%、旭29%、稲武街24%、稲武周辺27%)が多く、夫婦が中心(小原71%、旭72%、稲武街72%、稲武周辺64%)である(図8)。家族数は小原3.6人、旭3.3人、稲武街3.0人、稲武周辺3.1人である。

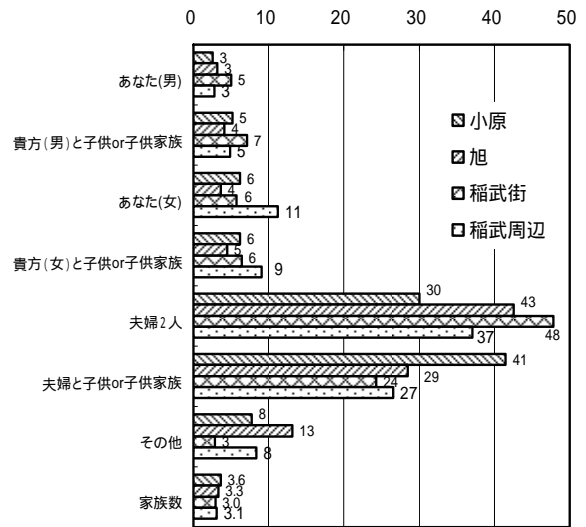


図8 家族構成

3.3.3 現在の家に住み続けたいか

「今後も現在の家に住み続けたいか」についての回答は、「住み続けたい」が小原88%、旭87%、稲武街90%、稲武周辺83%と多く、次いで「どちらとも言えない」が7~11%、「住み続けたくない」は2~4%と少ない。

図9は「住み続けたい」と回答した理由である。「生活が好き」の評価が最も高く50~55%、次に「家が好き」38~39%、「近所との交流」35~39%、「風土が好き」22~36%、「不便なし」16~43%、「近くに子供がいる」15~17%と続く。稲武街の「不便なし」が43%と高いのは、日常の用事は街内で可能なためと思われる。

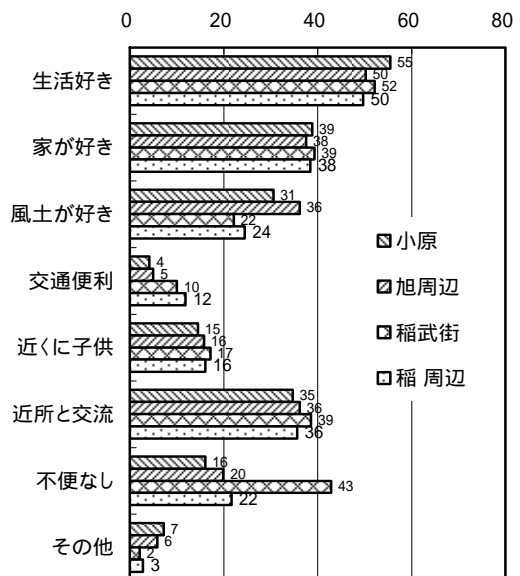


図9 現在の家に住み続けたい理由

「当地に住み続けたくない人」は少数で、全回答者の7～9%である。地域によって「住み続けたくない」理由に差がある。主な共通意見としては、「病院が遠い」「当地の将来」「冬期の生活」「事故」「教育」の不安が挙げられる。

3・4 日常生活と問題点

3・4・1 買い物の主な交通手段と所要時間（複数回答）

日常生活に必要な買い物の主な交通手段を図10に示す。中山間地域での生活のため、交通手段はほとんどの人が「自動車」（小原、旭79%、稲武街42%、稲武周辺74%）である。稲武街では「徒歩」50%、「自転車」42%、「自転車」12%と他の地域と異なる。「自動車」の片道所要時間の平均値は、小原30分、旭31分、稲武街23分、稲武周辺26分である。

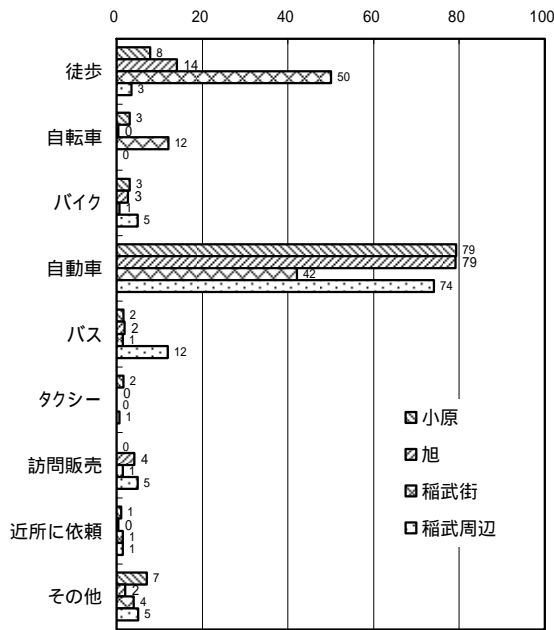


図10 買い物の交通手段

3・4・2 病院への交通手段

病院への交通手段は、「自動車」が最も多く小原78%、旭83%、稲武街49%、稲武周辺76%で、稲武街の車の利用率が低い。これは街の中に病院があるためと思われるが、買い物の交通手段より自動車が7%、バスが8%多く、徒歩は11%少ない。

3・4・3 冬期（降雪時）の不安（複数回答）

降雪期の生活上の心配な事項は、「病気」が35～45%と最も高い。「公道までの除雪」は稲武街40%、稲武周辺45%で、小原24%、旭15%より高いが、これは稲武の降雪量が他支所より多いためと思われる。続いて「買

い物」17～24%、「室内の寒さ」9～15%と続く。「特に心配ない」は小原31%、旭16%、稲武街29%、稲武周辺24%である。（図11）

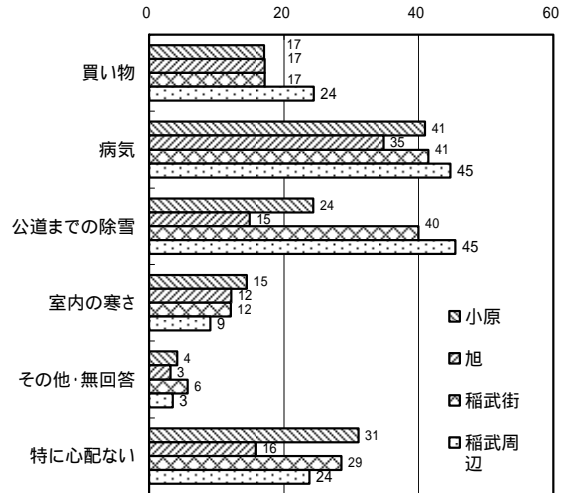


図11 冬期の生活で心配なこと

3・4・4 生甲斐、楽しみ（複数回答）

生甲斐、楽しみとしては、「家族」55～60%、「人との交流」30～44%、「仕事」35～36%、「TV、ラジオ」「旅行」27～45%、「趣味」27～31%、「田畑・菜園」などが続く。（図12）

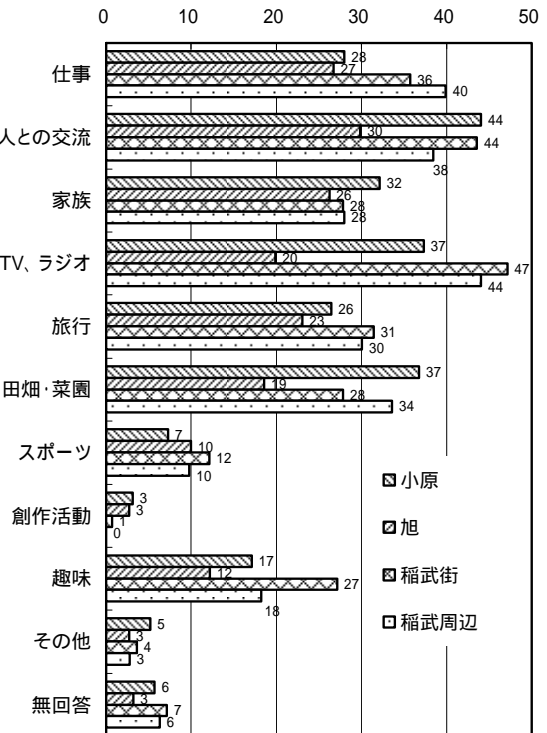


図12 生甲斐、楽しみ

3・5 現在の住居

3・5・1 自宅の築後年数

自宅の築後年数の平均は小原 59 年、旭 65 年、稲武街 56 年、稲武周辺 62 年である。

自宅の築後年数は、50 年以上が小原 42%、旭 41%、稲武街 45%、稲武周辺 50%と多く、0~50 年まで 10 年毎の建築数がそれぞれ約 10%ある。(図 13)

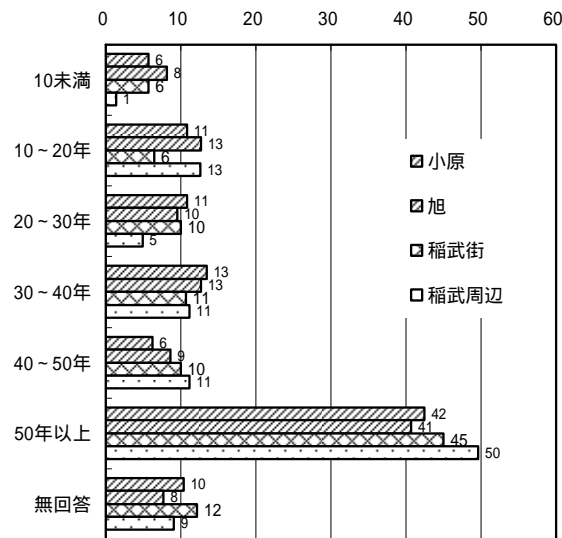


図 13 自宅の築後年数

3・5・2 自宅で改修した所 (複数回答)

自宅で改修した所は、「便所」20~26%、「浴室」16~19%、「台所」12~13%など水周りが中心で、「玄関」「廊下」「居間」は10%以下である。「特に無い」は16~24%である。(図 14)

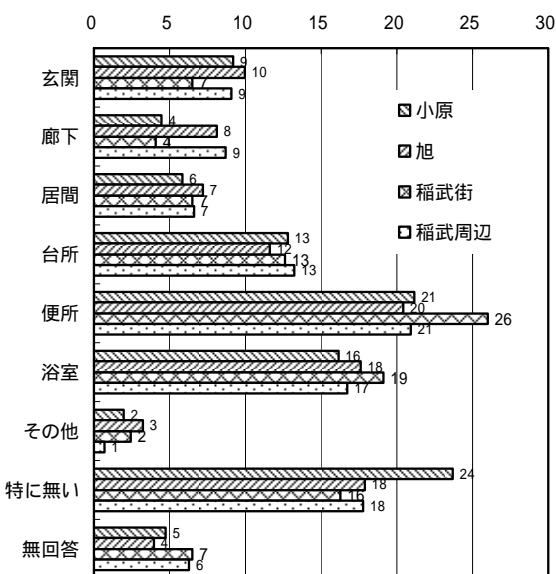


図 14 高齢になってから改修した場所

3・5・3 今後、改修したい所 (複数回答)

「特に無い」が31~34%で最も多いが、「浴室」11~15%、「便所」9~11%、「台所」8~12%と、3.5.2と同様、水周りの改修希望が高い。(図 15)

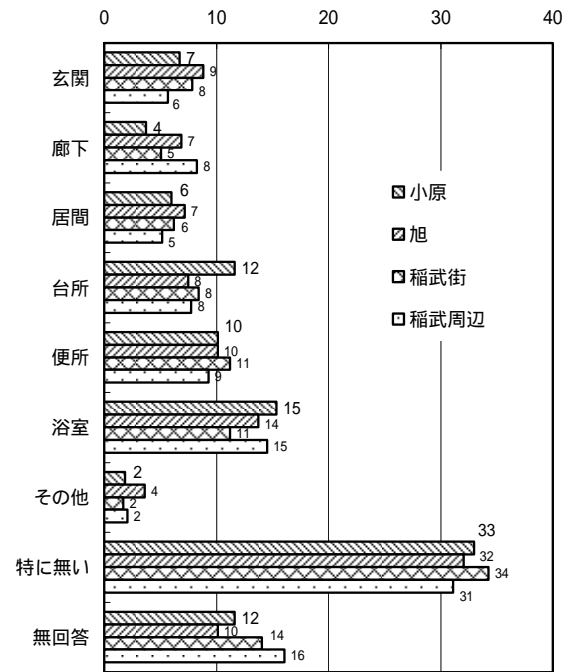


図 15 今後、改修したい場所

3・5・4 改善したい項目 (複数回答)

日常よく使用される部屋で改善したい項目は「特に無い」が41~46%で最も多く、「暖かさ(冬)」26~32%、「段差」7~15%、「隙間風」8~13%、「明るさ」6~10%などである。(図 16)

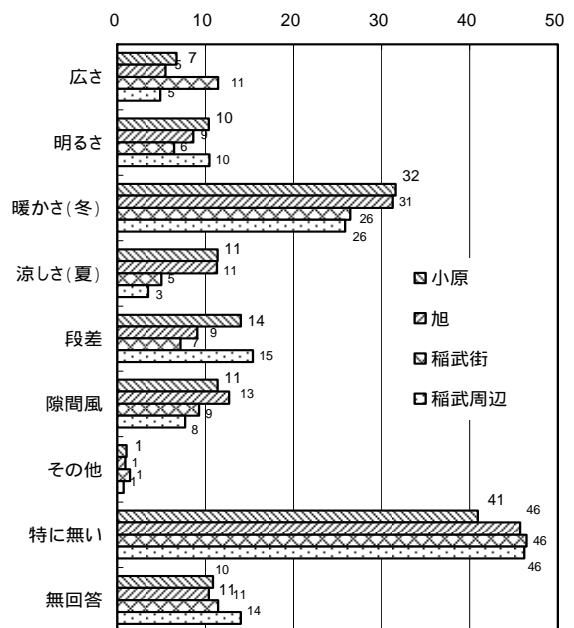


図 16 部屋で改善したい項目

3・5・5 暖房機器（複数回答）

室内の暖房機器の使用率は、ストーブ（42～47%）、エアコン（8～16%）で、小原、旭がそれぞれ60%、59%と稲武よりやや高く、「こたつ」の使用は稲武街、稲武周辺の方がやや高い。（図17）

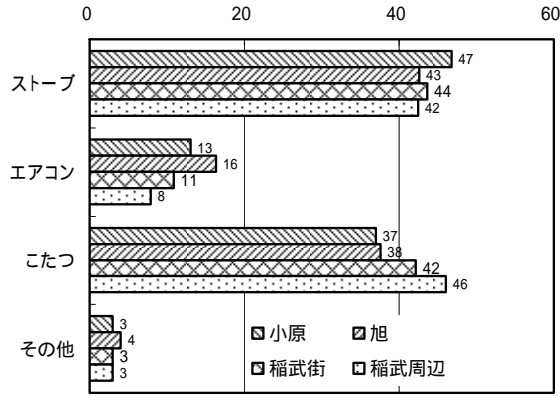


図17 暖房機器

3・5・6 暖房の評価

「暖房すると温かい」は、小原69%、旭72%、稲武街76%、稲武周辺77%である。「少し寒い」は小原24%、旭20%、稲武街16%、稲武周辺13%で、両者で、93%、92%、92%、90%である。「寒い」は3～4%である。（図18）

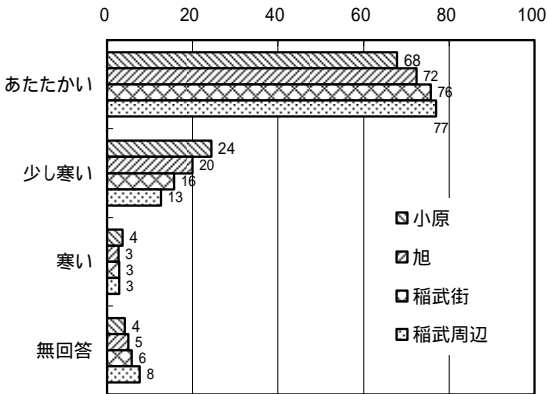


図18 暖房の評価

3・6 将来の生活

3・6・1 子供との同居の希望

図19は、将来、夫婦だけ、あるいは一人暮らしになった時、子供（身内）と同居することについての回答をまとめたものである。

一緒に住む「完全同居」は小原49%、旭52%、稲武街49%、稲武周50%とほぼ半数であり、一緒に住むが生活は別々にする「独立型同居」は小原18%、旭14%、稲武

街14%、稲部周8%である。両者を合わせると小原67%、旭66%、稲武街63%、稲部周58%と半数以上が同居を希望している。「近くに住む」は、小原5%、旭7%、稲街8%、稲周8%、「断る」は3～6%、「分らない」は15～21%である。

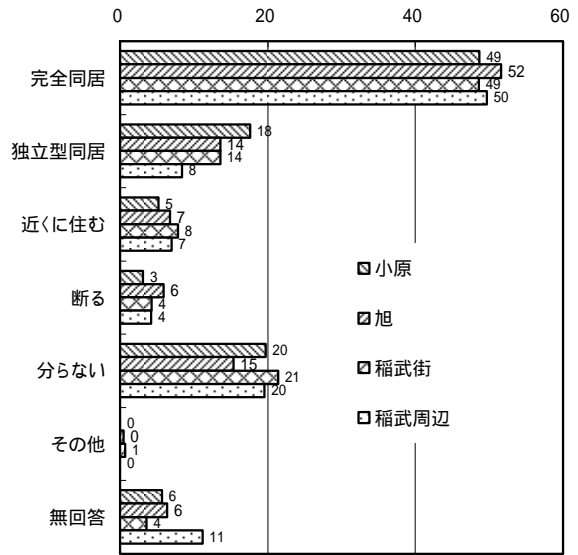


図19 子供との同居の希望

3・6・2 一人暮らしが困難になった場合（断った人）

図20は、将来一人暮らしが困難になった時、どのように暮らしたいかを示したものである。「介護施設に入居する」（小原31%、旭33%、稲街36%、稲周36%）、「子供（身内）と同居」（小原10%、旭16%、稲街14%、稲周14%）、「子供を呼ぶ」（小原11%、旭12%、稲街14%、稲周8%）である。「分らない」（小原32%、旭25%、稲街27%、稲周21%）で、約3割の人が決めかねている。

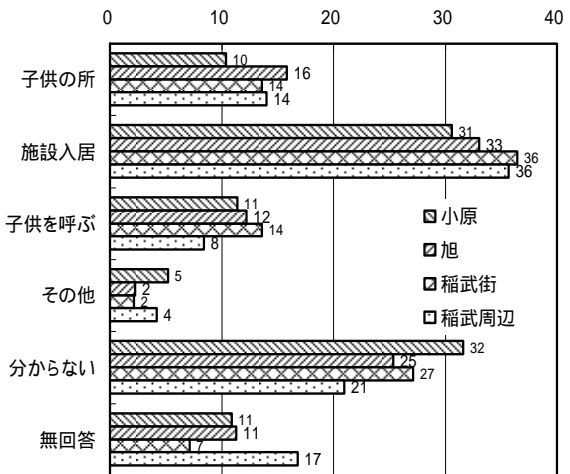


図20 一人暮らしが困難になった場合

3・6・3 介護施設の場合

3・6・2 で「介護施設に入居する」と回答した人の希望する介護施設の場所は、地元の施設（46～60%）、「子供のいる地域」（19～28%）、「地域にこだわらない」（14～26%）、「分らない」2～10%である。

3・6・4 冬期の一時入居施設

「冬期のみ入居できる施設」の希望は、「強く希望する」「希望する」の両者で小原 25%、旭 23%、稲街 31%、稲周 21%である。「希望しない」は小原 24%、旭 27%、稲街 30%、稲周 31%で、「希望しない」方がやや高い。「分らない」25～30%である。

3・7 施設

3・7・1 希望する施設（複数回答）

居住する地域に希望する施設は、「介護施設」50～54%、「医療施設」29～44%の要望は高いが、「冬期一時入居施設」（10～15%）、「高齢者向け賃貸住宅」10～15%の希望は少ない。（図 21）

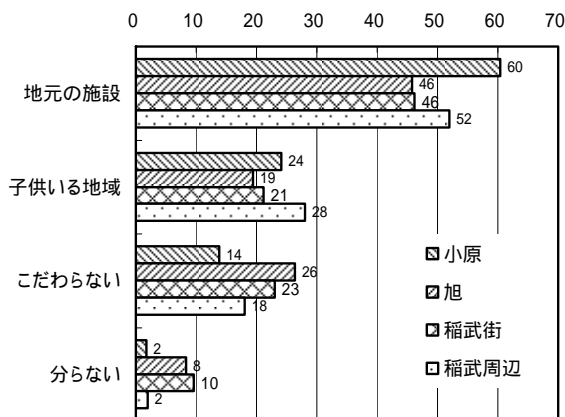


図 21 介護施設の場合

3・7・2 入居を望む住宅・施設（複数回答）

居住する地域に住宅・施設があれば入居したいかについては、「介護施設」34～45%、「冬期の一時入居施設」15～22%、「高齢者向け賃貸住宅」8～15%で、無回答は 28～38%である。（図 22）

4. まとめ

豊田市は 2005 年に周辺の 6 町村と合併し、総合的な地域づくりが期待されている。本調査ではその内の旧豊田市と隣接しない中山間地域の小原支所、旭支所、稲武支所（以下各支所という）を対象に高齢者の生活の現状、

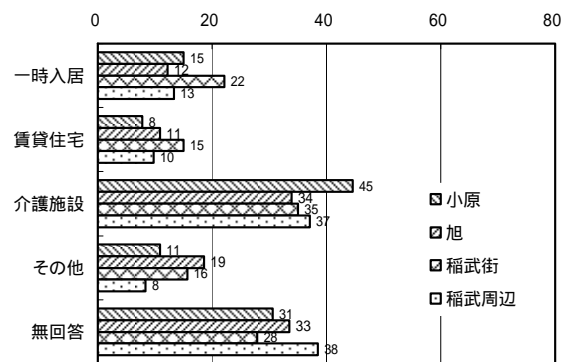


図 22 必要な施設・住宅

住環境、冬期の住まい方、ならびに今後の自立した生活づくりについてアンケート調査を行い、現状の問題点と要望について考察した。下記にその結果を要約する。

- 1) 現在および将来の生活上の問題点としては、全支所で「過疎化」「高齢者の一人暮らし」が高く、「高齢者だけの暮らし」「医療」「高齢者用介護施設」が続く。
- 2) 将来の生活に関し不安に思う項目としては「過疎化」「高齢者だけの暮らし」が高く、「医療」「在宅介護」「高齢者用介護施設」が続く。
- 3) 当地の在住年数は、60 年以上の人が小原 66%、旭 70%、稲武街 70%、稲武周辺 63%と多く、40 年以上では小原 84%、旭 90%、稲武街 91%、稲武周辺 88%を占める。家族構成は、「夫婦二人」が最も多く、「夫婦と子又は子供家族」が続く、夫婦が中心である。
- 4) 「現在の家に住み続けたい」理由としては、「生活が好き」の評価が高く、次に「家が好き」「近所との交流」「風土が好き」「不便なし」と続く。なお、稲武街の「不便なし」が 43%と高いのは、日常の用事は街内で可能なためと思われる。
- 5) 日常生活に必要な買い物の主な交通手段は、中山間地域での生活のため、多くの人が「自動車」であるが、稲武街では「徒歩」50%、「自動車」43%「自転車」12%で、他の地区と異なる。
 医院への交通手段は、「自動車」が小原 78%、旭 83%、稲武街 49%、稲武周辺 76%で稲武街の車の利用率が他に比べ低い。これは街の中に医療機関があるためと思われる。
- 6) 降雪期の生活上の心配事項は、「病気」が多く、稲武では「公道までの除雪」が多い。続いて「買い物」、「室内の寒さ」である。
- 7) 生甲斐、楽しみとしては、「人との交流」「家族」、「仕事」「TV、ラジオ」「旅行」「趣味」「田畑・菜園」などが続く。
- 8) 「当地に住み続けたくない人」は、回答者の 7～9%

豊田市の中山間地域における高齢者の生活環境に関する調査研究

であり、主な理由として、「病院が遠い、当地の将来、冬期の生活、事故、教育の不安」が挙げられている。

9) 自宅の築後年数は50年以上が、小原42%、旭41%、稲武街45%、稲武周辺50%と最も多く、0~50年まで10年毎の建築数は、それぞれ約10%ある。

10) 利用暖房機器については、ストーブ(42~47%)、エアコン(8~16%)の利用は小原・旭が稲武に比べ高く、両者を合わせると約6割になる。「こたつ」の使用率は小原、旭(37、38%)より、稲武街、稲武周辺(42、46%)の方がやや高い。「暖房すると温かい」は68~77%、「少し寒い」は13~24%、両者で、小原、旭、稲武街92%、稲武周辺90%と約9割になる。

11) 将来、夫婦、あるいは一人暮らしになった時、子供(身内)と一緒に住む「完全同居」の希望は49~52%で、「独立型同居」は8~18%、両者で58~67%で半数以上が同居を望んでいる。

12) 一人暮らしが困難になった時の希望は、「介護施設」31~36%、「子供(身内)と同居」10~14%、「子供を呼ぶ」8~14%である。「分らない」は21~32%で、約3割の人が決めかねている。

「介護施設」の希望地は、「地元」46~60%、「子供のいる地域」19~28%、「地域にこだわらない」14~26%である。

13) 「冬期間の一時入居施設」の希望は、「希望する」「分らない」「希望しない」の割合はそれぞれ約1/3である。

14) 住んでいる町に「介護施設」「医療施設」の要望は高いが、「冬期一時入居施設」「高齢者向け賃貸住宅」は低い。

高齢者向け施設への入居希望については「介護施設」34~45%、「冬期一時入居施設」15~22%、「高齢者向け賃貸住宅」8~15%で、無回答は28~38%である。

5. 謝辞

本調査に当たり、豊田市、小原・旭・稲武支所の関係各位、ならびに各自治区の役員の方々にご協力いただきました。記して感謝の意を表します。

6. 文献

- 1) 豊田、加茂7市町村の合併の記録，豊田市，平成17年4月
- 2) 小林定教：山陰地方の中山間地域における高齢者の生活環境意識に関する調査研究，人間と生活環境，10(1)，pp.9-17，2003
- 3) 愛知県統計年鑑(平成17年度版)，愛知県

注1) 中山間地域：中山間地域は、日本における農業地域4類型、都市的地域、平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域のうち、山寄りの山間地域と中間地域の2類型を合わせた地域の総称である。

(受理 平成19年3月19日)